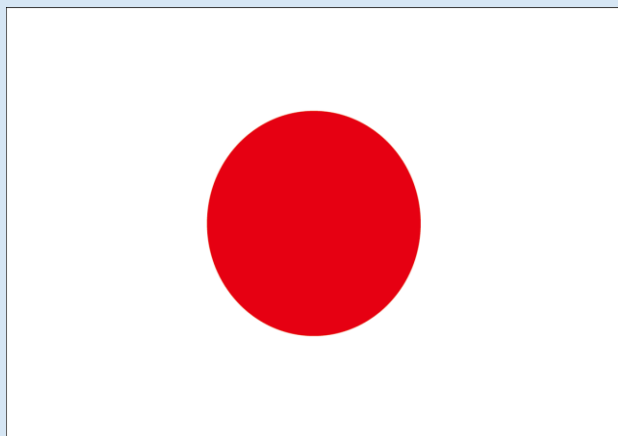


■ 2020ワールドコラボフェスタ “Boa tarde! ～こんにちは!” ■

日本とブラジルは1895（明治28）年11月5日、「日伯修好通商航海条約」調印により外交関係を樹立しました。2020年は125周年に当たり、ブラジルでは、記念切手も発行されています。日本とブラジルの長い友好関係は、多くの人たちの交流と絆によって力強く支えられています。愛知県国際交流協会では、“Boa tarde! ～こんにちは!”と題してブラジルを特集しています。

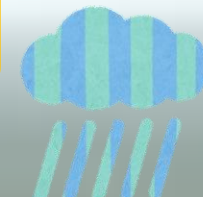


日本とブラジル

～文化の違いーあるある9選～

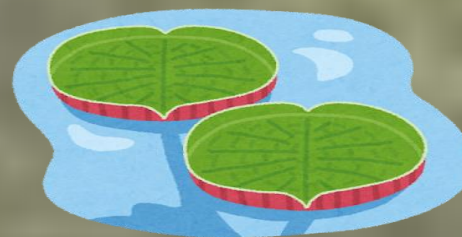


～ アマゾンの雨は痛い ～



★ アマゾンの雨は痛いそうです。きっと、降り方が強いせいなのでしょう。★

- 南米最大の国ブラジルは、特に、500万年かけ生まれた熱帯雨林を流れる大河アマゾン川流域は大自然の宝庫です。
- 流域には、約1000種以上の魚が生息しているなど、珍しい生物がたくさん生息してます。
- 大潮時は、海水がアマゾン川を猛スピードで逆流する「ポロロッカ」という珍しい現象が起きます。
- アマゾン川には、「生きた化石」とも呼ばれるピンク色の「アマゾンカワイルカ」が住んでいます。
- アマゾンに行くと、運が良ければかわいいピンクのイルカに会えるかもしれません。



★ カリッカリッのピラニア唐揚げ ★

- ◆ 「ピラニア」と聞くと、肉食の獰猛な魚のイメージがありますよね？
- ◆ 獰猛な怖い魚のイメージがありますが、もしかしたら食べたらおいしいかも！？
- ◆ 実はピラニアはたんぱく質が豊富で、淡泊な白身魚のおいしい味！
- ◆ 煮つけにもできますが、小骨が多く身が少ないので、あまりお勧めではないそうです。



- ◆ 「ピラニアはポルトガル語で、**Piranha(ピラーニャ)**と言います。先住民族の言葉トゥピ語から派生してブラジルで生まれた言葉です。「魚」を意味する“Pira”と「歯」を意味する“Ranha”を掛け合わせてできました。
- ◆ アマゾン川流域で暮らしている人々は、肉食性の獰猛と言われるピラニアを食べる習慣があります。

～ 手を上げて止まる、ゆっくりバス ～



- ◆ サンパウロ市のバスは、基本的には、**前乗り**です！
- ◆ 降りるときは、中央部と後部にある降車口から降ります。
- ◆ 乗車口と降車口の間に、**椅子に座った料金徴収人がます！**
- ◆ **コブラドール Cobrador** と呼ばれています。
- ◆ サンパウロ市には、市内および市内と郊外を結ぶ900以上のバス路線があります。路線は非常に複雑で、日本のようなバス路線図はなくバス停にも名前がありません。そのため、最初は戸惑うでしょうが、乗り方や降り方は日本とほとんど同じなので簡単です。**運賃は、前払い制。**
- ◆ **基本的に時刻表はありません。**バスは来た時に利用するもの、遅れる場合も早く出発する場合もある、というのがブラジル人の感覚です。



★ フラジル警察ストライキ！？ 軍隊出動！ ★

- 日本では少なくなった「ストライキ」と聞くと、皆さんはどう感じますか？
- 2012年1月31日、ブラジル第3の都市バイーア州のサルヴァドル市で、軍警察（PM）の「ストライキ」が起きました。
バイーア州の30,000人の警察官のうち、約10,000人が参加しました。警察官の要求は賃金の引き上げで、警察が機能しないため、国は軍隊を出動させて対応しました。
- 2018年、燃料価格の高騰に抗議するトラックやバスなどの運転手組合の「大規模ストライキ」が発生し、物流網のマヒなど経済に混乱を起こしました。
当時のテメル大統領は、総額134億レアル（約4000億円）規模とされる緊急対策案を実施し、軍が出動する事態となりました。
- 背景には、治安や文化、貧困層の問題などがあると言われています。大勢が参加する「大規模なストライキ」や、激しい暴動、例えばショッピングモールでの略奪や、壊したATMごと奪っていく強盗が起きたりします。そのため、ブラジルでは、軍隊が出動することもあるのです。



～ バイーアは、アフリカ宗教色が濃い ～



- ◆ ブラジル最初の首都「サルヴァドル」のあるバイーア（州）は、世界遺産の街として多くの観光客を惹きつける、魅力に満ちた地域です。
- ◆ ポルトガル人の入植当初、砂糖きびの大規模農業のため労働力として、アフリカから多くの黒人が連れてこられ、今も黒人系ブラジル人が多い地域として有名です。
- ◆ アフリカ系文化に由来した観光資源が多く、中でも特にアフリカ系の文化を色濃く残したものが「カンドンブレ（Candomblé）」と呼ばれる民間信仰です。
- ◆ 「カンドンブレ」は、リオデジャネイロ州とバイーア州を中心に発展し、現在、信仰者は200万人ほどと言われています。
- ◆ 「カンドンブレ」は、白人のカトリック系キリスト教徒からの迫害（もちろん、今は迫害なんてありませんよ）を逃れるため、キリスト教に改宗した形をとりつつ、独自の発展を遂げたとされています。
- ◆ 例えば、キリスト教の聖アントニオを礼拝していると見せつつ、カンドンブレのオリシャ（神）「オグン」（鉄の神様）を礼拝している、というようにキリスト教の聖人とカンドンブレのオリシャがリンクされているそうです。

サンバを踊れないブラジル人もいっぱい！？

- ◆ みなさんはブラジル人と聞くと、誰でも上手にサンバを踊る、と思ってはいませんか？……いえいえ、とんでもない。サンバを踊れないブラジル人も、たくさんいます。
- ◆ 「うちの日系人の旦那は全然踊れない」と断言する人もいます。
- ◆ 多くの日本人は「ブラジル」と聞くと「カーニバルの国」と想像されるのではないのでしょうか？ 音楽と踊りに溢れる楽しいイベントです。
- ◆ しかし、ブラジル人すべてがカーニバルを楽しんでいるわけではありません。あえてカーニバルから逃避して、郊外の田舎や海外へ出かける人もたくさんいます。
- ◆ カーニバルの誕生の歴史は古く、キリスト教とは関係のない、古代ローマ、古代ギリシャの異教徒の春のお祭りに由来し、いくつか説はありますが、その祭りの期間にご馳走を食べ、飲んで、踊る、無礼講、豊穡を祝う収穫祭でした。日本の秋祭りに似ていますね。



(写真提供: 蒲美幸氏)

好きな分だけポルキロ形式

- ◆ ブラジルでは、ランチタイムに日常的に楽しんで食べられる「ポルキロ(Por Quilo)・レストラン」が一般的です。
- ◆ 「ポルキロ」とは、「1キログラムあたり」という意味で、料理を量り売りしているレストランのことです。
- ◆ メニューはご飯、パスタ、肉料理、魚料理、サラダ、野菜の煮込み料理、そしてフルーツなどで、並んでいる料理から好きなだけ取ってレジで計量し、支払いをします。
- ◆ 導入されたのは、90年代初頭、牛肉の値段の上昇に困り果てたシュラスコ専門店が、ビュッフェを導入したのが始まりで、日本で言う食べ放題形式のバイキングスタイルが成立しました。



【利用時の注意点】

食べ残しダメ！追加料金が加算されることも！

ドリンクやシュラスコなどは別料金の場合があります！

★ ぜひ！ブラジルへ行った際は「ポルキロ」を！！ ★

～ 「銀ブラ」の本当の意味とは！？ ～



- ◆ 「銀ブラ」と聞くと多くの人は、「銀座をぶらぶらすること」と思われるのではないのでしょうか。
- ◆ 実際に、国語辞典で検索すると、大正時代からの俗語で「銀座の街をぶらぶら散歩すること」と表記されています。でも、実は本当の意味とは全く異なったものだったのです。
- ◆ 当時、「写真は魂が抜き取られる。」と信じられていたぐらいの時代、コーヒーも当時の日本人の慣れ親しんだ味覚からかけ離れた「ハイカラ」な未知の飲み物でした。そんな時代に、「銀ブラ」という言葉は、「銀座カフェーパウリスタ」という喫茶店に「ブラジルコーヒーを飲みに行こう！」というところから生まれました。

★ 銀座カフェーパウリスタ ★

- ◆ 今から109年前、明治44年(1911年)12月12日に開業しました。
- ◆ ブラジル移民の父と称される水野龍（カフェーパウリスタ初代社長）は、サンパウロ州政府より、年間1,000俵の珈琲豆の無償供与と東洋の一手宣伝販売権を与えられ、日本におけるブラジル珈琲の普及事業を委託されました。



女の子のための 15歳パーティー！

フィスタ・デ・キンゼ・アーノス

(festa de quinze anos)と、呼ばれています。

- ◆ブラジルでは、女の子が15歳の誕生日を迎えると、日本の結婚式のような、盛大なパーティーが行われます。これは、ブラジルでは15歳が大人の仲間入りだという公認の日でもあります。日本で言う成人式にあたります。
- ◆家族が大人の女性としての門出を祝福するという意味があり、普通の誕生日とは違い、結婚式のようにドレスアップしたり、父親とワルツを踊ったり、写真家を頼んだり、ダンス形式の盛大なパーティーが行われます。



■ ありがとうございます ■

「日本とブラジル文化の違いーあるある9選」をご覧いただき、ありがとうございました。

私どものサイトでは、このほかに、愛知県の日系ブラジル人の様子を知っていただける動画や、愛知県の外国人の状況、ブラジルの基本情報、ブラジル料理紹介、写真で見るブラジル、ブラジル愛知県人会、といったトピックの記事を用意しています。

ぜひそちらもご覧ください。



果てしなく続くビーチ<パラ州ブラガンサ市のアジュールテワ海岸> （写真提供：ルーカス・サンタナ氏）